

会 議 記 録				
会議の名称		議会運営委員会		会議場所 全員協議会室
				担当職員 加藤 太郎
日 時		令和4年12月19日（月曜日）		開 議 午前11時00分
				閉 議 午前11時30分
出席委員		◎木曾 ○西口 平本 松山 藤本 菱田 田中（委員外議員） 欠席：三上 ＜福井議長、山本副議長＞		
執行機関 出席者				
事務局 出席者		井上事務局長、数井次長、野澤副課長兼総務係長、加藤副課長兼議事調査係長、 佐藤主任、小野主任		
傍 聴	可	市民0名	報道関係者0名	議員1名（富谷）

会 議 の 概 要

11:00

[木曾委員長 開議]

<木曾委員長>

三上委員から欠席届が提出されており、共産党議員団から田中議員が委員外議員として出席されるので了承願う。

1 議事日程

[事務局長 説明]

<木曾委員長>

議事日程については、このとおり進めることでよいか。

—全員了—

<木曾委員長>

委員会審査報告書、議員提案議案、意見書案は議場に持参願う。なお、タブレット端末にもデータが入っているので、各会派で周知願う。

2 討論順序について

[事務局長 説明]

<木曾委員長>

三上委員がコロナの濃厚接触者で本日の本会議を欠席されるが、討論通告を出されており、そのことについて田中委員外議員から会派としての意見を聞かせていただきたい。

<田中委員外議員>

委員長からあったとおり、三上議員がコロナの濃厚接触者となったため、本日の本会議は欠席させていただく。三上議員が討論通告している第9号議案と議第1号議案については、できれば共産党議員団から討論したいと思っており、そのように取り計らいをお願いしたい。

<木曾委員長>

ただいま田中委員外議員から会派として討論したい旨の申し出があった。今回は特別な事情があるので、委員の皆さんにお諮りした上で、よければそのように取り計

らうこととしたいがどうか。

<藤本委員>

三上議員名で討論通告がされている。あくまでも通告議員が討論すべきものであるので、ほかの議員が討論されるのはいかがなものかと思う。

<木曾委員長>

ほかに意見はないか。

<菱田委員>

このような際の取扱いはどのようなになっているのか。

<事務局長>

最終的にはこの場でお諮りいただくことになる。

<菱田委員>

藤本委員がおっしゃることも分かるが、緊急事態として認めざるを得ないのではないか。

<松山委員>

やむを得ない理由であり、認めるべきであると思う。

<藤本委員>

三上議員の考えをそのまま討論されるのか。

<木曾委員長>

会派内で討論の趣旨が共有されていると思うがどうか。

<田中委員外議員>

そのとおりである。共産党議員団を代表して討論するので、ぜひ認めていただきたい。

<木曾委員長>

議運事前調整の際に正副議長と正副委員長で協議した中でも、今回は特別の事情として認めてはどうかとなった。

<藤本委員>

共産党議員団として意見を述べられるということは、それなりの原稿等によって討論されるのか。討論される議員の個人的な意見が入るのが不確かであるので、そのことを確認願いたい。

<田中委員外議員>

当然、共産党議員団として意見を述べるものである。原稿はないが、会派内でしっかりと内容を確認した上で討論させていただく。

<藤本委員>

会派内で同意された文章であれば分かるが、その趣旨をくんで述べられるということであれば、三上議員の考えと全く同じかどうか分からないので、その確認を取ってほしかった。

<田中委員外議員>

この取扱いがどうなるか分からないので、まだ成文化していないが、議会運営委員会でお認めいただければ、会派内で討論内容を確認した上で述べさせていただきたいと思っている。

<木曾委員長>

急遽、コロナの濃厚接触者であることが分かり、皆さんの健康のことも考えた中で、本会議の欠席届が提出されたものである。これは緊急事態と言えるので、できれば特別な事情として認めて進めさせていただくことがよいと思うがどうか。

<藤本委員>

例えば、通告者本人が交通事故等でどうしても議場に参集できない場合でも、本来であれば代わりに討論できないのが通常である。それでも討論されることに皆さんが賛成されるのであれば、それは多数に従わなければならないと思う。

<松山委員>

藤本委員がおっしゃっていることもよく分かる。どうしてもやむを得ない場合として認められる場合には、議会運営委員会に諮って皆さんの賛同が得られれば討論できることとして進めてはどうか。

<木曾委員長>

議長の意見を聞かせていただきたい。

<福井議長>

議会の規則的には藤本委員がおっしゃるとおりであるが、本人は急な連絡でコロナの濃厚接触者であると分かった時点でそのまま帰られた。そのような本人の責にならない緊急な事情であるので、今回に限っては代わりに討論することを認めてよいのではないか。これが一般質問であれば当人でなければできないのが当然であるが、議案の賛否を表明する討論であるので、会派内でしっかりと討論内容の意思統一ができていれば、特例として議会運営委員会が認めることで討論できるものであると判断している。

<木曾委員長>

2議案とも会派を代表して討論されるので、そのことはしっかりと意思統一されていると思う。

<平本委員>

藤本委員がおっしゃることは大前提であり、本人の意思確認が取れなければどのようなことが言いたいのか分からないが、今回に限っては意思確認が可能であるので、討論の趣旨が変わらないのであれば特例で認めてよいと思う。

<西口副委員長>

いろいろな意見が出たが、平本委員からあったように、三上議員の意思を十分確認されることを条件に討論を認めることで、議会運営委員会の合意形成が図ればよいのではないか。

<木曾委員長>

皆さんから意見を聞かせていただいた。藤本委員がおっしゃっていることは決して間違いではなく、これまでの流れからすれば当然であると思う。

<藤本委員>

オンラインでリモート会議ができれば、この場で本人の意思確認ができるが、今はまだ制度が整っていない状況である。本来であればあり得ないことであるが、今回はしっかりと本人の意思を確認いただいた上で、本当に特例として認めるかどうかの判断になると思う。

<木曾委員長>

藤本委員がおっしゃっていることを否定するものではなく、確かに筋を通しておられるのでよく分かるが、17期最終の議会の締めくくりとして、皆さんがどのような立場で本会議に臨まれるかということである。互いに議員として自覚と認識を持ちながら、さらにその上で寛容な気持ちの中で議会運営委員会の合意形成として治めていくということも議会のありようではないかと考えている。これまでになくコロナ禍という状況の中で、今回このようになったことに対して誰も責められるもの

ではないことを御配慮いただき、委員長の判断としてこの2議案に対する討論を認めさせていただくことで御承知願いたいがどうか。

—全員了—

<木曾委員長>

三上議員がされた第9号議案と議第1号議案の討論通告を取り消し、改めて資料のとおり田中議員の通告で討論を認めることとする。

3 採決順序について

[事務局長 説明]

<木曾委員長>

説明のと通りの採決順序で進めることでよいか。

—全員了—

4 その他

<木曾委員長>

本会議再開時刻は、午後1時30分でよいか。

—全員了—

<木曾委員長>

17期最後の締めくくりとして、御挨拶させていただきたい。17期の4年間にわたり議会運営委員長を務めさせていただいた。この間、委員の皆さんには円滑な議事進行に御協力いただき、コロナ禍で困難な対応を余儀なくされたが、議会の本来の役割である二代表制のもと、様々な課題に対して活発に議論させていただいた。また、議会改革や議会活性化に積極的に取り組み、多くの成果を上げることができたのではないかと考えている。特に後半2年間は福井議長とも集中的に議論させていただき、今期の最後にはオンライン会議に係る規定整備も行うことができ、大変充実した議会運営委員会であったと思っている。これまでの皆さんの御尽力に心から感謝申し上げ、併せて、私にとっては28年間の長きにわたりお世話になったことに心から感謝を申し上げ、お礼の御挨拶とさせていただく。

<西口副委員長>

副委員長として御挨拶申し上げる。私自身、20年の議員活動の中で何度か副委員長を務めさせていただいたが、委員長がしっかりと進行いただいたので、代位としての機会は少なかったと感じている。そのような中で、皆さんの御協力のおかげで充実した議会運営ができたことに感謝申し上げたい。これからも精進いただき、市民福祉の増進のためにさらに頑張ってくださいよう祈念申し上げて、御挨拶とさせていただきます。

<木曾委員長>

これで散会とする。

散会 11:30